

コロナ禍後の学生に活用される新しい図書館のスタイル

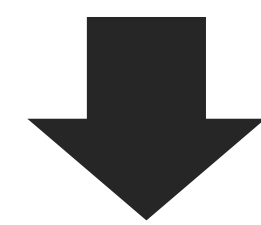
顔認証システムの導入・デジタル学生証への対応

※オープンアクセス加速化事業の一環として導入

大阪大学のDX推進（OUDX推進室）

2024年4月 顔認証入場管理システムを構築・学内への展開

2025年1月 大学公式アプリ上でデジタル学生証・教職員証の提供を開始



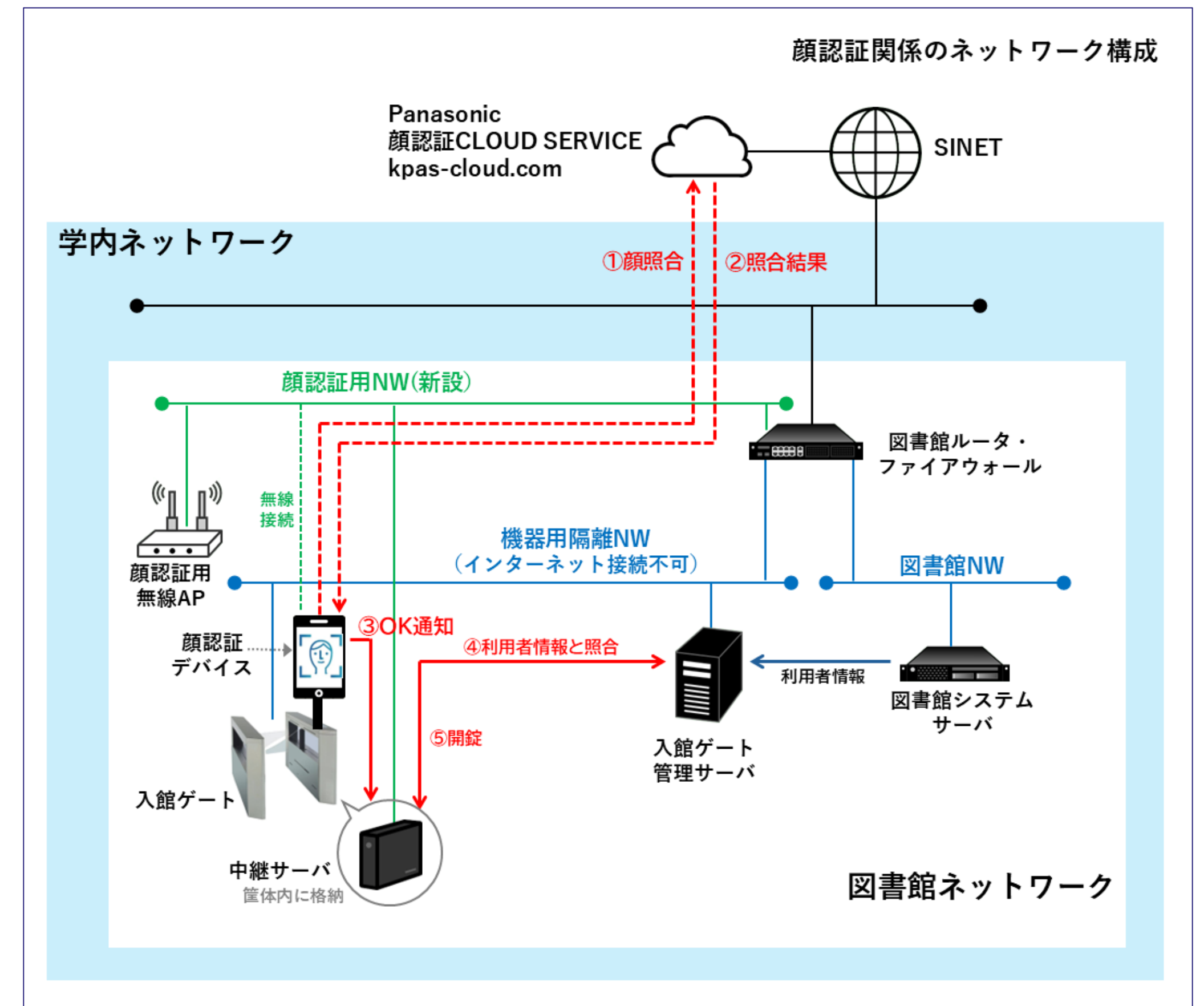
附属図書館においては、
大阪大学、紀伊國屋書店、パナソニック コネクトが連携し、
顔認証対応入館ゲートと自動貸出返却装置を導入

2025年5月 顔認証を利用した入館を開始

デジタル学生証・教職員証のQRコードを利用した
入館ならびに貸出を開始

2025年秋 顔認証による貸出を運用開始予定

導入の メリット		学 生：利便性向上 図書館：カウンター業務の負担軽減 →人的リソースの効果的な再配分が可能に
-------------	--	--



スピーキングブースの導入

ニーズ		学 生：オンライン授業受講やWebミーティング参加 図書館：カウンターにとらわれない、館を超えた オンラインレファレンスの実現
-----	--	---

ユース ケース		・オンライン授業の受講 ・教員のオンライン授業実施 ・外国語の発音練習
------------	--	---

附属図書館ラーニング・サポーターとの 協働による学習支援サービスの提供

2009年度より学生の学習支援を行う
大学院生TA「ラーニング・サポーター
(LS)」を館内に配置（今年で17年目）



活動内容：学習相談への対応、セミナー
等の自主企画、図書展示の企画、図書館ツアーのガイド等
2025年度は総勢22名のLSが授業期平日に各キャンパスで勤務

- ・学習相談は、ラーニング・サポートデスクでの対面、リアルタイムオンライン、相談フォームの3種類で柔軟に対応
- ・これまでにLSが作成したパスファインダーは244点
- ・LSのための研修を全学教育推進機構の専任教員が開催
たとえば……
学習支援3つの鉄則 / 書くことを教えるラーニング・サポーターのためのライティング支援研修



- ・LS（現・本学特任助教）がLS活動改善のための報告書を公表

中村瑞樹（2024）「大阪大学外国学図書館におけるLS活動改善のためのアカデミック・ライティング・スキル学習とその指導の実態調査の結果報告」『大阪大学高等教育研究』12, pp. 43-57.



ラーニング・サポートデスクは、学生の学習活動をサポートするのみならず、研究者・教員の卵であるLSの学びの場にもなっている。

本学学生ならではの 「公共×大学」図書館活用例

本学が指定管理者として運営する箕面市立船場図書館は、
大学図書館機能を兼ね備えたユニークな図書館

一体的運営→本学構成員による社会貢献の場として機能

外国語学部の学生の実践例

- ・海外の文化を紹介する市民向けイベントを開催
- ・学習・研究成果を市民に発表
- ・外国語での読み聞かせイベントを開催
言語初學者の学生にとっては発話実践の場
外国ルーツの子どもたちにとっては母語に触れる機会



これらの活動を通して、学生が教室から一步出て実践的な学びと社会貢献の喜びを経験できるよう支援している。